



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成22年度	平成23年度	平成24年度
活動指標	利用日数	日	千代田公民館本館の利用日数	目標	280	280	280
				実績	263	293	
成果指標	延べ利用者数	人	千代田公民館本館の延べ利用者数	目標	10,000	10,000	10,000
				実績	9,096	13,878	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】□

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

地域住民の交流の場として、地域コミュニティづくりのために市民にとっては、学習、憩い、集会等重要な施設である。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

利用者の安心、安全を考慮した環境に努め、更なる利用促進を図るため施設の管理を行っていききたい。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】□

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

利用者の安心、安全を考慮した環境に努め、更なる利用促進を図るため施設の管理を行っていききたい。

■課題と対応方針

課題	老朽化に伴う施設の不具合が年々増加し、修繕等による維持管理費の縮減は難しく施設利用の危険性が増している。 なお、講堂が千代田庁舎の窓口となっているので、市民に貸出できない。
次年度における対応方針(改善方針)	施設整備点検の充実、冷暖房経費を極力押さえ、使用者の理解を得て、コスト削減を図る。
中長期的な視点での対応方針(改善方針)	老朽化している施設設備の修繕工事

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	宮本 敏光      担当課名 千代田公民館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止    年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input checked="" type="radio"/> 増額 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	施設の老朽化に伴う、設備や機器の不具合が発生し、修繕計画を含めた管理事業の見直しと建物、機械設備等の延命に努め、例年並みの維持管理に努める。

二次評価【部長評価】	
部長名	小松崎 延明      担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
拠点施設であり、施設の安全確保の観点から適正な維持・管理は必要。	



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成22年度	平成23年度	平成24年度
活動指標	開催数	回数	講座及び教室の開催数	目標	20	20	20
				実績	20	23	
成果指標	受講率	パーセント	講座及び教室の定員総数に対する受講者総数の率	目標	75.00	75.00	75.00
				実績	78.08	78.13	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

自ら学習活動に参加し、学ぶ楽しさや喜びを感じながら自己実現をはかれるよう、15講座4教室を開催し、学習環境づくりに努めた。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

参加者が少なく中止になった講座が1講座あったが昨年程度の受講者数があり、概ね目標の成果が得られた。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

アンケートを実施して講座を充実していきたい。

■課題と対応方策

課題	受講者に人気のある講座がある反面、参加者数が少なく中止になる講座がある。
次年度における対応方策(改善方策)	アンケート調査を行い、継続性のある講座を中心に実施する。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	人気のある講座は、ステップアップを行い、地域性に富んだ講座を幅広く開講する。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	宮本 敏光    担当課名 千代田公民館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止    年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input checked="" type="radio"/> 増額 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	地域性に富んだ講座を中心に、老若男女を問わず多数受講できるような各種講座を取り入れ内容を充実し実施を検討していきたい。

二次評価【部長評価】	
部長名	小松崎 延明    担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
	講座・教室の開設には、ニーズを的確に捉え且つ教養性も加味し内容の充実を図り実施する必要あり。



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成22年度	平成23年度	平成24年度
活動指標	災害復旧事業	施設	震災被害のあった公民館本館及び講堂の修繕工事	目標実績		2	
				目標実績		2	
成果指標				目標実績			
				目標実績			

■事務事業の点検

**必要性の点検**

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

生涯にわたり学習する喜びとともに、人々の交流、コミュニティ活動拠点となる施設の整備は重要

**目標達成状況の点検**

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

閉館していた公民館本館及び講堂を修繕したことにより、施設の利用が出来るようになった。

**実施内容・方法の点検**

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

当該補助事業については、平成23年度の単年度事業であり、見直す余地はない。

■課題と対応方策

課題	公民館本館及び講堂の修繕工事が9月に完了し、施設の利用ができるようになったが、平成24年3月末日から千代田庁舎窓口が講堂に移ってきたため、講堂の使用が出来なくなった。
次年度における対応方策(改善方策)	検査管財課で、千代田庁舎の災害復旧を早急を実施する。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	講堂について、千代田庁舎窓口が移るときスムーズな現状復旧を検査管財課で実施する。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	宮本 敏光      担当課名 千代田公民館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止    年後を目処) <input checked="" type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	

二次評価【部長評価】	
部長名	小松崎 延明      担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
	本館の耐震診断を24年度に実施するので、その結果を踏まえ施設整備の方向性を検討する必要がある。